

河川整備計画[県管理区間]の内容と効果 及び事業進捗の状況について

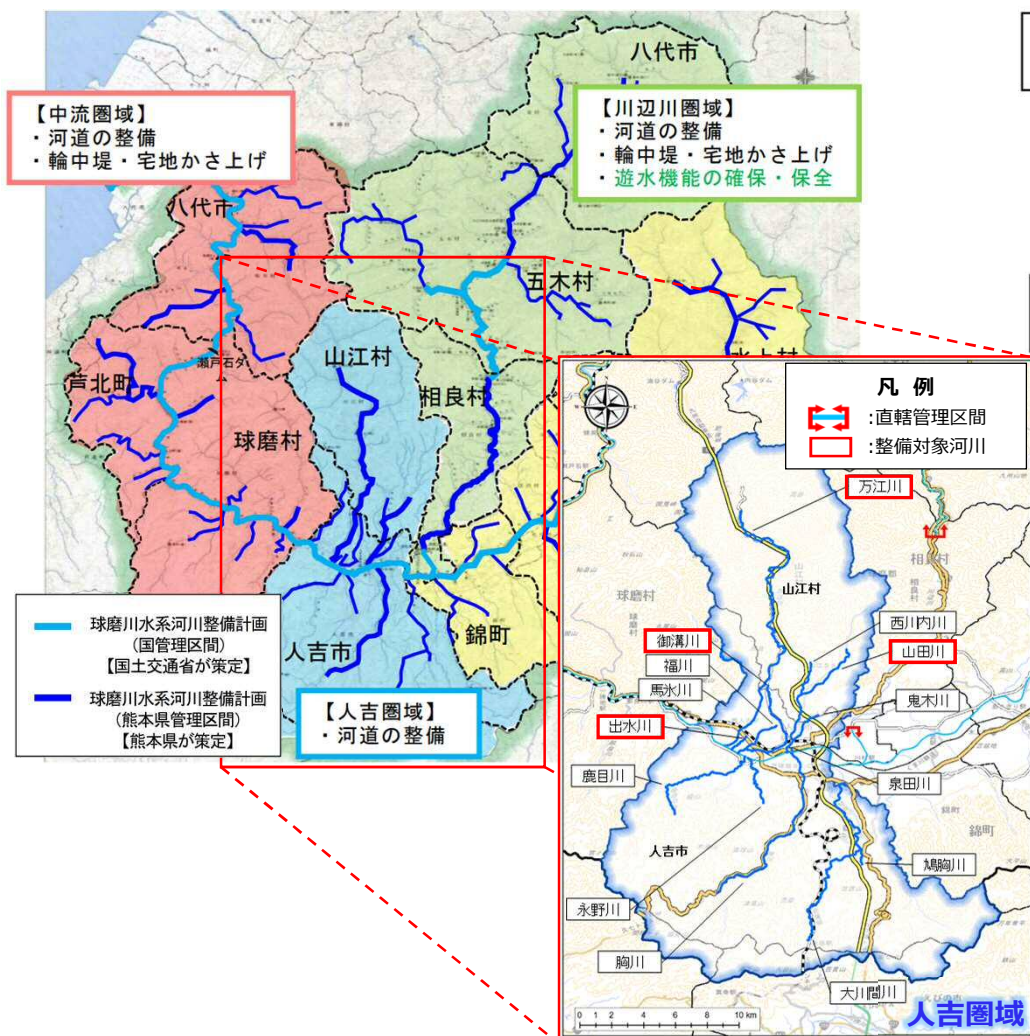
令和 6 年 9 月 4 日
熊 本 県

河川整備計画[県管理区間]における計画対象区間と期間

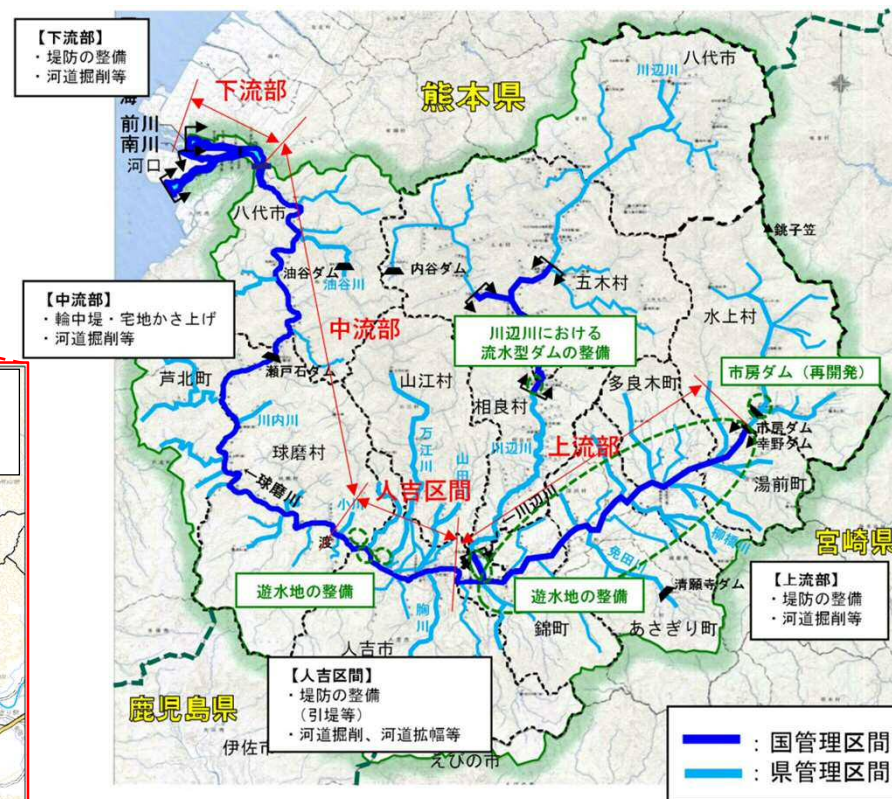
計画対象区間

■ 球磨川水系河川整備計画 [県管理区間] の計画対象区間は図のとおり。(80河川、流路延長432.9km)

県管理区間における主な治水事業位置図



【参考】国管理区間における主な治水事業位置図



洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

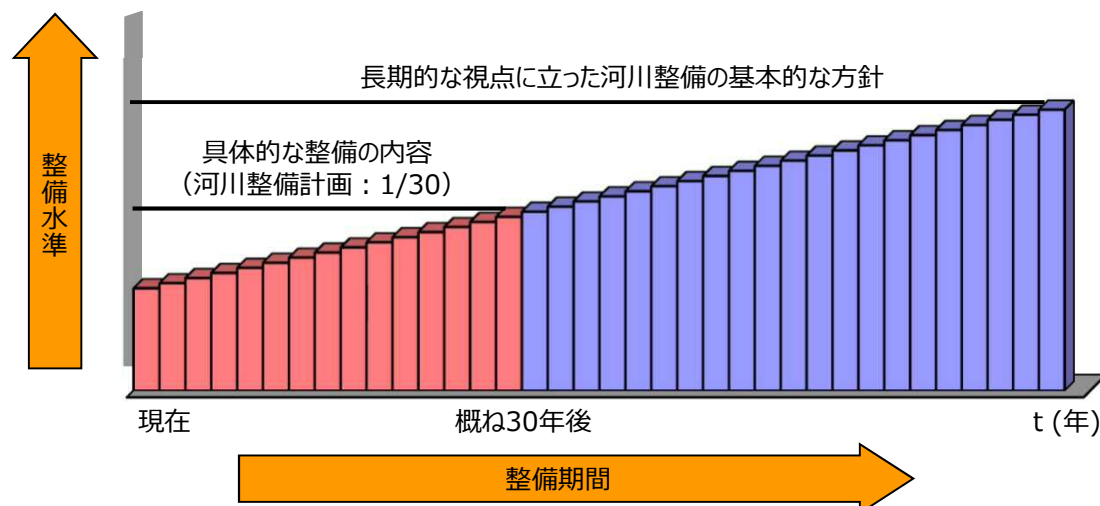
治水対策の目標

- 令和2年7月豪雨をはじめとする過去の水害の発生状況、気候変動の影響による降雨量の増大、流域の重要度、河川整備の状況等を総合的に勘案し、球磨川水系河川整備基本方針に定められた整備目標に向けて、上下流及び本支川の治水安全度のバランスを確保しつつ段階的かつ着実な河川整備を実施するとともに、**令和2年7月豪雨と同規模の洪水を含む想定し得る最大規模までのあらゆる洪水を想定して、あらゆる関係者が連携し流域全体で実施する治水対策「流域治水」による球磨川流域の強靱化を推進することで洪水氾濫等による災害の防止又は軽減を図ることを目指します。**
- **気候変動による降雨量の増加を考慮（1.1倍）して算出した年超過確率が概ね1/30規模の目標流量を安全に流下させることとします。**

整備計画完了により期待できる効果

この計画に基づく整備を完了することにより、**気候変動を考慮した戦後最大の洪水（令和2年7月豪雨を含む）と同規模の洪水に対し、家屋の浸水防止など、流域における浸水被害を軽減できます。**

球磨川水系河川整備計画〔県管理区間〕における
段階的な整備目標のイメージ図



【参考】球磨川水系における整備目標

	人吉地点	横石地点
河川整備基本方針	1/80	1/100
河川整備計画〔国〕	1/50	1/80

令和2年7月豪雨と同規模の洪水に対して、
・本川では、人吉市等の有堤区間にける越水を回避
・支川では、家屋の浸水を防止
など、**浸水被害を軽減する。**

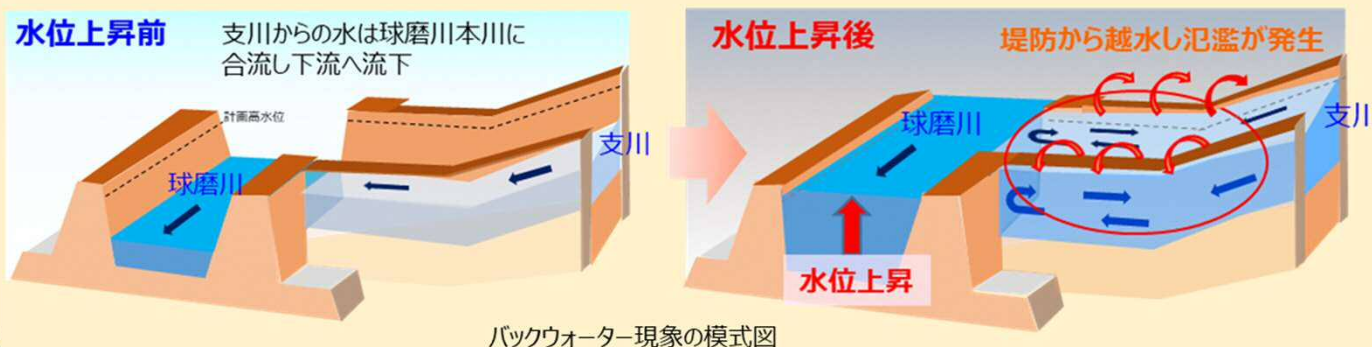
山田川(令和2年7月豪雨による被災状況について)

【山田川からの氾濫】

○令和2年7月豪雨では、球磨川本川の水位上昇に伴い、山田川の水が本川へ流下しにくくなり、行き場を失った水で山田川の水位が上昇するバックウォーター現象（※1）の影響により、山田川の合流点付近は水面勾配がほとんどない状態で水位が上昇し、氾濫が発生したものと推定（※2）

（※1）下流側（球磨川本川）の水位変化が上流側（山田川）の水位変化に影響を及ぼす現象のこと。背水ともいう。

（※2）その後、球磨川本川の氾濫も発生し、沿川が広範囲に浸水。



令和2年7月豪雨時の山田川の状況

【堤防護岸の崩壊】

○市街地側に氾濫した水が山田川に戻る際に、水圧によりパラペット型堤防護岸が崩壊したものと推定。一般の方も利用されていた管理用通路が通行止めとなり復旧活動等にも支障



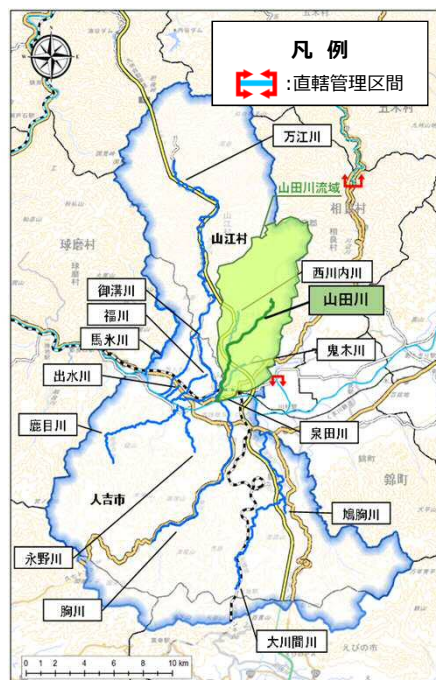
令和2年7月豪雨時の堤防護岸の崩壊状況

山田川(整備概要①)

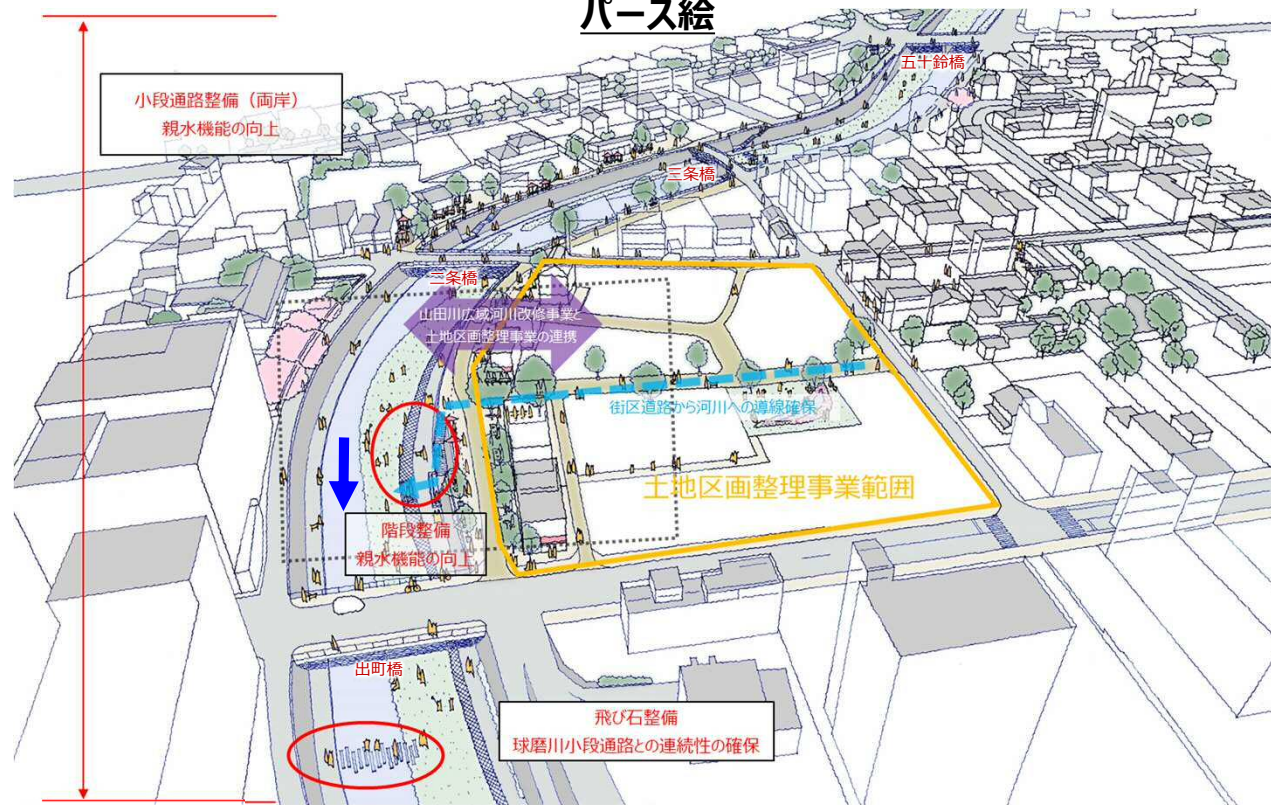
■ 球磨川水系河川整備計画に基づき河川整備を実施

整備のポイント 【氾濫を防ぐ対策】 【崩壊を防ぐ対策】 【良好な河川空間の形成】 【復興まちづくりとの連携】

位置図



パース絵



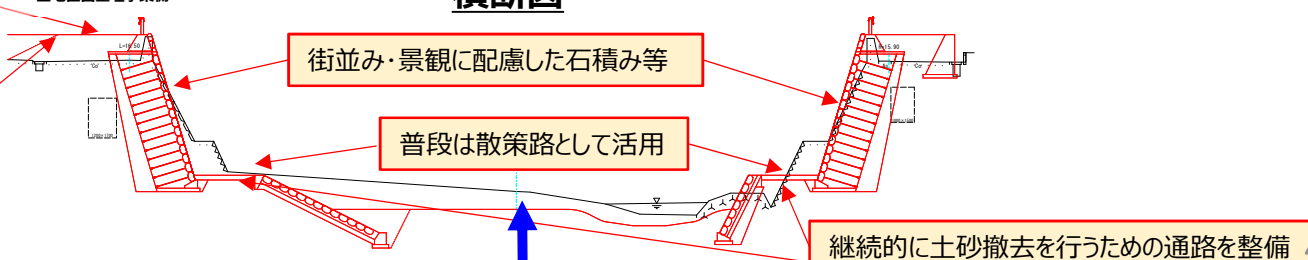
堤防の幅を確保し、構造を強化
 堤防を活用した安全・安心確保のための
 避難路等として幅 6 m の市道を整備

川へのアクセスを確保する
 まちづくりと一体となった整備

左岸
 土地区画整理事業側

横断面図

右岸



山田川(整備概要②)

■ 球磨川・人吉地区かわまちづくり計画への位置付け（R6.8.8に変更登録）

計画策定目的・・・

利用者・地域住民・市民活動団体・企業・地域自治体・河川管理者等が協力しあって、人吉市のまちづくりと連携しながら球磨川の水辺空間を活かした“かわまちづくり”として、「にぎわい（活力）」「自然・歴史（共生）」「人をはぐむ（利用）」を目的に、水辺空間整備と利活用・維持管理に取り組むもの。

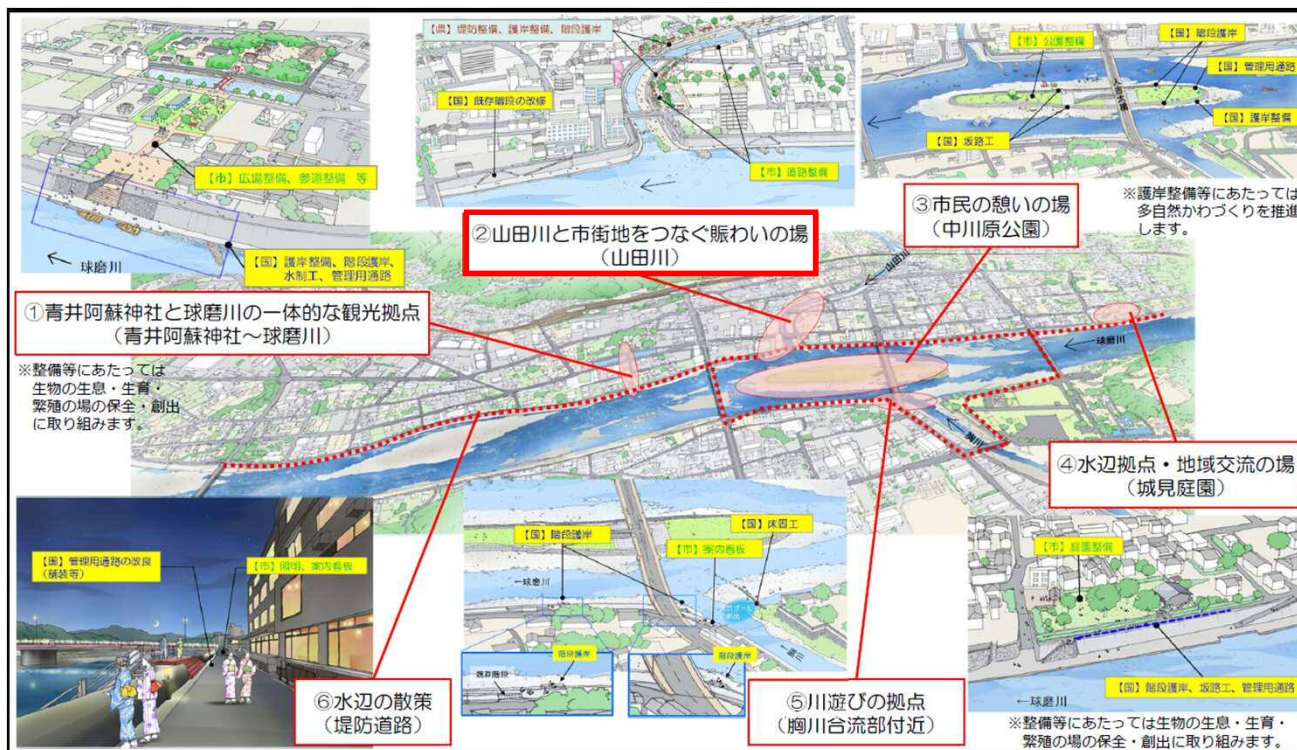
かわまちづくりの概要

整備内容

国：護岸整備、階段護岸、水制工、坂路工、管理用通路、床固工、既存階段の改修、管理用通路の改良（舗装等）

県：堤防整備、護岸整備、階段護岸

市：広場整備、参道整備、公園整備、庭園整備、道路整備、案内看板、照明 等



R6.4.25 市長への計画書の手交
(人吉市HPより)



かわまちづくり計画登録証

位置図

二次放水路
L=1,300m

一次放水路 (H3完成)

上原田橋

写②

羽田橋

万江川橋

福川

鹿木川

写①

鳥越橋

人吉駅

人吉橋

大橋

水ノ手橋

西瀬橋

0 500 1000m

万江川取水口

山江川

二次放水路断面図

二次放水路

▽H.W.L.

3.6

3.2

1.5 7.4 3.5

＜御溝川 施工状況＞

御溝川

二次放水路

御溝川

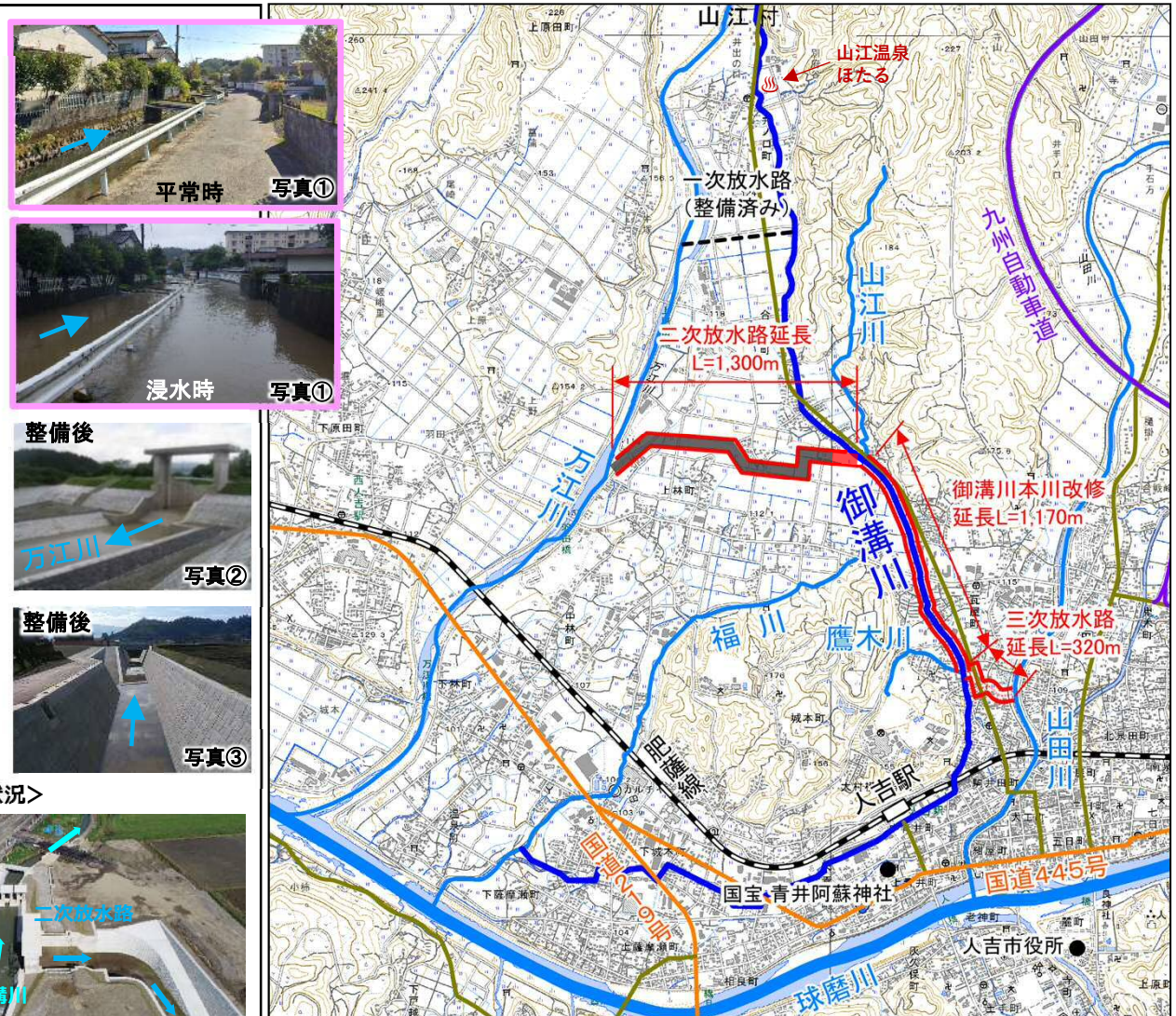
二次放水路

写真①

写真②

写真③

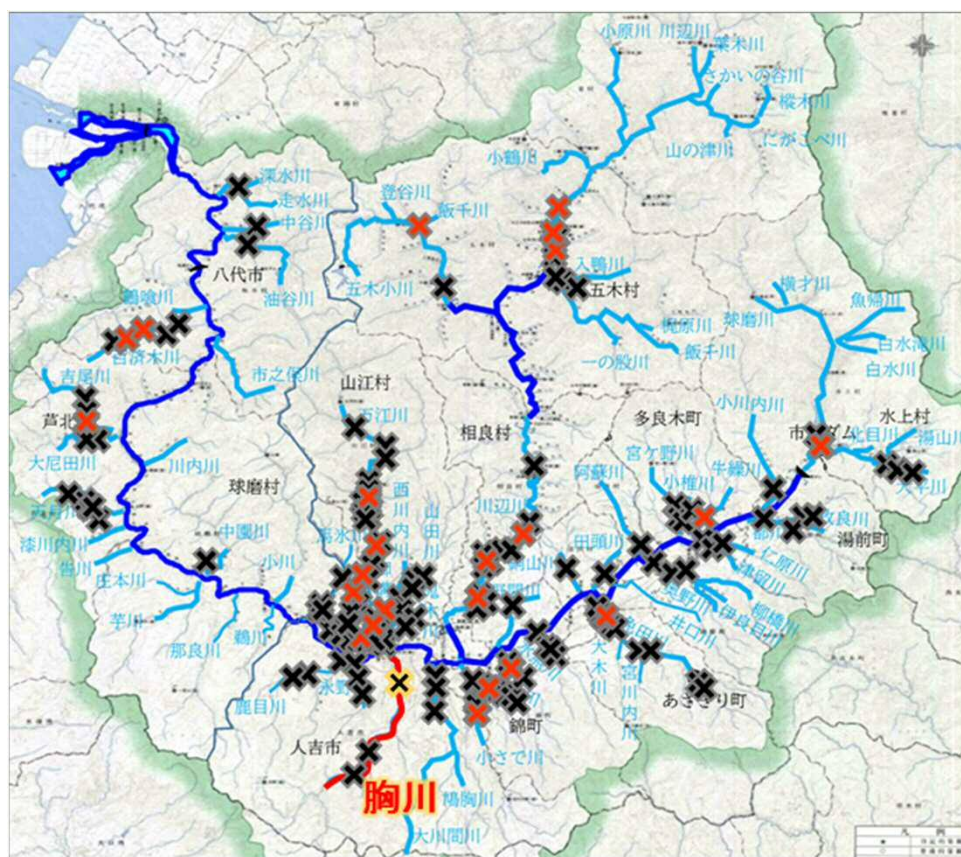
写真④



二次放水路 工事進捗約91% 今年度完成予定

堆積土砂の掘削状況[県管理区間]

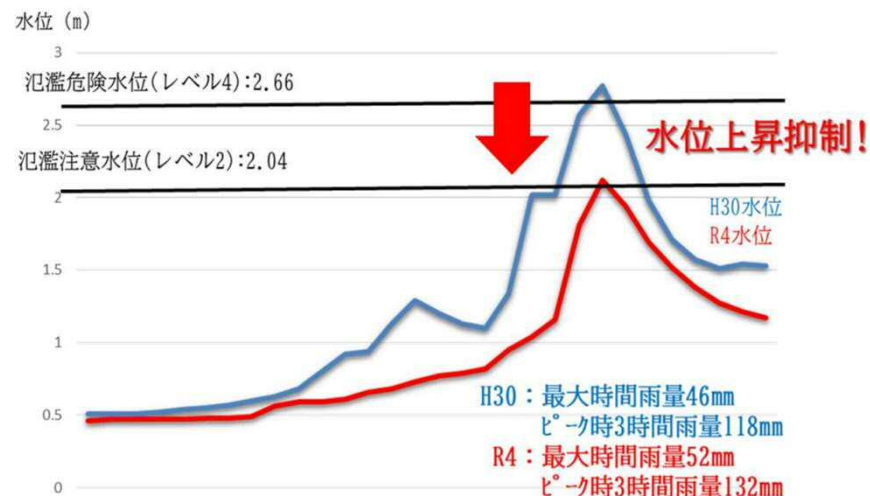
- 県管理河川においては、毎年、出水等により堆積した土砂を次期出水までに撤去できるよう掘削を行っており、令和2年7月の出水から令和6年5月末までに、累計で約139万 m^3 の土砂を撤去。
- **河道掘削実施前後において、同規模の降雨における河川水位を比較したところ**、実施前では氾濫危険水位（レベル4）を超過したが、実施後では氾濫注意水位（レベル2）までにとどまり、**水位上昇を約60cm抑え、地域の安全を確保。**
- 引き続き、地元のご要望を伺いながら、河川の流下能力の維持を図る。



✕ : 令和2年7月～令和5年5月末までの掘削箇所図
✖ : 令和5年6月～令和6年5月末までの掘削箇所図

球磨川水系**胸川**の事例

＜同規模の降雨における水位上昇を比較＞



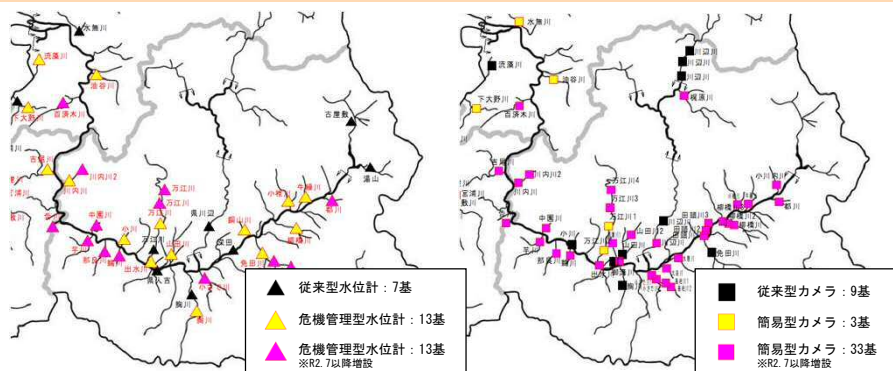
※総務省 緊急浚渫推進事業債 活用事例 (R5.1) より抜粋



住民の円滑な避難に向けた支援

- 住民の円滑な避難の支援に向けて、洪水時の情報を関係機関に提供するため、令和2年7月豪雨以降、水位計13基、河川監視カメラ33基を増設。
- 洪水浸水想定区域図の作成公表を行い、分かりやすく閲覧できるよう、「防災情報くまもと」の改修を実施。

河川監視カメラ映像及び水位情報の発信



水位計位置図 (県管理)

河川カメラ位置図 (県管理)

- 球磨川流域においては、現在、水位計33基、河川監視カメラ45基を設置済み。令和2年7月豪雨以降、水位計13基、河川監視カメラ33基を増設。
- 川の水位情報 (<https://k.river.go.jp>) で河川の状況に関する情報を発信。

<河川監視カメラ映像>



洪水浸水想定区域図の作成・公表

- 想定最大規模 (概ね1/1000以上の確率) の降雨による洪水浸水想定区域について、周辺に住宅等の防護対象のある河川を対象とし、令和3年10月までに全ての河川を指定。
- 市町村では、県で作成した洪水浸水想定区域図に、洪水予報等の伝達方法や避難場所等の、洪水時における円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項等を記載し、洪水ハザードマップが作成されている。
- 県ホームページ「防災情報くまもと」で、洪水浸水想定区域図をより分かりやすく閲覧できるよう、区域範囲や浸水深等をポップアップ表示する改修を実施。

